

材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
砂の絵	小	学級活動 6年 (図画工作)	河合和代 竹下久実

#### <ねらい>

- ・手順を理解して、できあがりイメージしながら作品作りに取り組む。
- ・砂の感触を感じながら、自分から道具や手指を使って作る。

#### <内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

- ・今回、修学旅行の事後学習として海辺でとってきた砂で作品を3つ（サンドアート1と今回の砂の絵2）を作った。そのうちの2つを紹介する。

#### <準備> ※①は児童と共に行い、②は教師が行う。

- ①砂に色をつける。（青、黄緑、ピンク、黄、水色）

ビニール袋に、水で溶いたアクリル絵の具と砂を一緒に入れて混ぜ合わせる。

- ②乾燥させてから細かく砕き、ふるいをかけてから、色ごとにペットボトルに入れておく。

#### <作品Ⅰ>

- ①台紙に型紙シール（ヒトデ、イルカ、わかめ、魚の形）を貼り付ける。幅広の両面テープを使って両面に接着面のある形シールを作っておく。

- ②下半分にカバー（熱を通したラミネートシートを使って作っておく）を貼り付ける。（仮留めでよい）

- ③上半分に刷毛で木工用ボンドを塗り、ペットボトルで青色の砂をかける。

- ④台紙を持ち上げて、余分な砂をはらう。

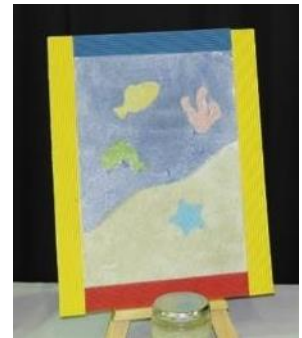
（はらった砂は、じょうごでペットボトルに戻す。）

- ⑤下半分のカバーをはずし、逆に上半分にカバーを付ける。

- ⑥下半分に同様にボンドを塗り、着色していない砂をかけ、余分な砂をはらう。

- ⑦①で貼り付けたシールの上面の剥離紙をはがす。

- ⑧⑦の部分に、その形に応じた色の砂をペットボトルでかけ、余分な砂をはらう。



#### <作品Ⅱ>

- ①白い厚紙に刷毛や筆を使って木工用ボンドをつけて、好きな線や点などを描く。

- ②好きな色の砂を選び、ペットボトルから紙全体にかかるようにかける。

- ③紙を傾けて、余分な砂を落とす。

- ④紙のあいた部分に①～③を繰り返す。

#### <良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- ・ボンドをつけて色砂をかけ、はらうという同じ手順を繰り返すので、作業に見通しがもちやすく、自信をもって取り組む児童が多かった。

- ・自分で砂に色を着けたことで、砂自体に愛着が生まれ、より作品作りを楽しんだり、発達年齢の低い児童も砂の感触に興味をもち、積極的に取り組んだりする姿が見られた。

- ・型紙シールをはがす時に、砂の下にある型紙シールの場所がわかりにくく、はがしにくかった。また、ボンドが乾いてしまうと、かちかちに固まり、削らないといけなくなってしまうので、シールは乾燥する前にはがした方がよかった。

#### <その他（材料、費用、購入先等）>

砂、アクリル絵の具、ビニール袋、幅広の両面テープ、ペットボトル、ラミネートシート、木工用ボンド、トレー、じょうご、刷毛、筆、厚紙（台紙用）



